冬合宿

小窓尾根～剣岳（敗退）

2004 年 12 月 27 日～2005 年 1 月 2 日

L 松田　菊地　吉田（記）

○27 日　小雪

馬場島（8:30）～雷岩（12:00）～1400M（13:30）

剣岳に向かうパーティーは 24（富山県警に登山届を提出してあるもの）あるが、ほとんどが早月尾根のピストンであり、小窓尾根に取り付くパーティーは我々だけであった。厳しい山行になりそうである。出発前にＮＨＫに取材される。取材班からは、早月小屋で待っていますと送り出された。なんとなくプレッシャーを感じる。雪の量は、剣岳にしては少ないそうであるが、雪はここ数日にまとめて降ったみたいで、安定感に欠けていた。また、ブッシュ帯では下の方が空洞になっていて、踏み抜いた場合、そこから脱出するのにかなり体力を消耗させられた。この踏み抜きは最後まで我々を悩ませた。

堰堤を左側から越えて雪の白萩川沿いに進む。渡渉が何回かあるので、靴を濡らさないように気をつけた。廊下を通過すると、左岸に池ノ谷が切れ込んでいた。さらにラッセルを続けると雷岩と呼ばれる岩が沢に横たわっていた。小窓尾根はここから取り付く。

急斜面を稜線めがけて登る。不安定な雪をワカンで踏み固めながら高度を稼いでいった。1400 メートル付近まで登ったところで、今日の行程を終えた。

オーバーヤッケが濡れてしまったので、テントの中で乾かす努力をしたが、乾ききらないうちに寝る時間がきてしまった。そのまま濡れた状態でシュラフに潜り込んだが、これが良くなかった。シュラフは思いっきり濡れてしまい、一度濡れてしまったものは乾かず、今山行ではシュラフが冷たくて十分な睡眠が最後まで取れなかった。

○28 日　曇り時々晴れ

幕営地（6:30）～1600M（8:15）～1900M（14：00）～2100M（16:10）

ラッセルは腿ぐらい。毛勝三山や剣尾根や早月尾根が良く見える。今、剣岳を目指して登っているのだと思うとすごく感激した。自分達の居る場所の高度を早月尾根と比較しながら登高していくと、徐々に高度を稼いでいるのが分かるので励みになった。ヘリが我々の頭上を越えて早月小屋の方向へ飛んでいくのが見えた。なんとものどかな感じがする。1900 メートルのピークを越えると尾根は徐々に痩せてきた。2100 メートル付近で時間もなくなってきたので、岩トレが出来そうな岩壁の陰にテントを設営した。

○29 日　曇り後吹雪

幕営地（6:30）～ニードル懸垂地点（12:00）～ドーム頭（13:30）

今日もワカンを装着してから出発した。腰ぐらいのラッセルが続く。昨日と同様、決して早くはないが、一歩一歩、剣岳に近づいていることが実感できる。この時点では、全員が登頂できるだろうと思っていた。リッジ状の痩せた岩尾根を通過して、ニードル基部に

出た。支点にザイルをセットして池ノ谷側に懸垂で降りた。その先の小さなルンゼを降りればコルであるが、ルンゼ内にはほとんど雪がついておらず、つるつるした岩が剥き出しになっていた。クライムダウンでは難しいと判断して、そこも潅木を支点にして懸垂で降りた。ドームの急斜面は古い残置に導かれるようにして登った。ドーム頂上には１時間半ほどで出た。

○30 日　雪

幕営地～ピラミッドピーク基部（9：05）～2185M（15:40）

　前日から前夜にかけて降った雪のため、ラッセルは腰上から胸あたりまでになった。ドームの頭からピラミッドピークの基部まで来るのにえらく時間がかかった。31 日と元旦は悪天候が予測される。このまま突っ込んだ場合、自力下山できない恐れも出てきたので、この時点で退却を決めた。ドームからコルへの急斜面は滑落に注意して慎重に降りた。コルからニードル基部までの登りでは、往路の時に懸垂で降りた左側のルートは、出だしの部分が悪く見えた。右側は一枚岩の上に雪が積もったように見える斜面であるが、こちらのほうが少しましに見えたので、恐る恐る取り付いてみたが、実際に斜面に立ってみると意外にあっさりと登れた。その先の少し傾斜の強い岩場は、念のためにザイルを出し、残置を掴んで強引に登った。今日はあまり行程ははかどらなかった。テントは前後が岩峰に挟まれたようになっているコルに設営した。

○31 日　雪

幕営地（7:10）～1700M（16：20）

　出発時に方向が分からなくなり少し時間をロスした。雪は依然と降り続いており、ラッセルが段々厳しくなってきた。出発前は今日で降りられるだろうと思っていたが、とんでもない見込み違いであった。荷を背負った状態では効率が悪いので、先頭は空身でラッセルすることにした。腰から胸くらいのラッセルで距離が稼げない。今日は 1700M 付近でタイムアウトになった。潅木の隅にテントを設営した。

○1 日　雪

幕営地（9：10）～1614M ピーク（11：40）～1430M（15：20）

　今日も、昨日と同じようなペースである。引き込まれやすい支尾根が多いので、池ノ谷の方向に行かないように時々進行方向をチェックしながら進んだ。ずいぶん時間が掛かったが、どうやらあと一日あれば下山できそうな地点まで戻ったので、時間はやや早かったが、行動を打ち切った。

○2 日　晴れ

幕営地（6：50）～雷岩（8：30）～取水口（12：35）～馬場島（16：00）

　幕営地から尾根をわずかに進んだところで、北側の斜面への降り口に出た。斜面に立つと傾斜が出て来たので、ラッセルはずいぶんと楽になった。だいぶ下ったところで少し左側に寄りすぎたことに気が付いたので、右側のなだれた跡を見せるルンゼに降りて、その

まま真っ直ぐにルンゼを下った。見覚えのある雷岩にでた時にはほっとしたが、その後の沢中のラッセルも行きと大違いで大変であった。

－ラッセル－

－馬場島の朝－